

令和元年度自己評価書

学校名 橋本市立恋野小学校

校長名 小嶋 敏裕

印

作成日 令和 2年 2月13日

1 今年度の教育目標

今年度の教育目標 「知・徳・体の調和のとれた子どもを育成する。」

〇めざすこども像

『こ』－ ところや優しく 思いやりのある子

『い』－ いつも元気で たくましい子

『の』－ のびのび表現し 進んで学ぶ子

〇めざす学校像

・ 子どもたちにとって 笑顔あふれ 明日も楽しみな 学校

・ 教職員にとって 情熱を発揮し とともに生き生きと創造できる学校

・ 地域・保護者にとって 家庭や地域と連携し 信頼される学校

2 今年度の重点目標

今年度の重点目標

〇豊かな心の育成～「豊かな心を育みます。」～

〇確かな学力の向上～「学力向上に向けて取り組みます。」～

〇健やかな体の育成～「体力向上に向けて取り組みます。」～

〇地域とともにある学校づくり～「地域とともにある学校作りに努めます。」～

3 評価項目の取組及び達成状況 3 評価項目の取組及び達成状況

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
豊かな心の育成 ・ 人権教育の推進 ・ 道徳教育の推進 ・ 態度教育の推進 ・ 学級集団づくり	①人権教育計画に基づく取組の推進 ②ふるさと学習の推進 ③道徳科の授業と評価の充実 ④態度教育5項目の徹底 ⑤仲間づくりの充実と学級集団づくり ⑥体験活動の充実	①人権教育計画に基づいて各学年で取組を進めた結果、教師と児童との信頼関係、児童相互の好ましい人間関係の構築及び人権意識に一定の成果が見られた。 ②地域の方々と連携して、ふるさと学習を推進することで地域の自然、文化等について学ぶことができた。ただ、計画的な実施には課題がある。 ③道徳科については、年間35時間の計画的な授業実践及び適切な評価が全学年で概ね達成できた。 ④各学年で態度教育5項目は80%以上徹底できた。 ⑤全校47名が6年生を中心にまとまり、児童会活動、縦割り活動及び学年交流を通じて、仲間づくりの充実ができた。また、年4回のいじめアンケートの実施によりいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めた。 ⑥ 地域、関係機関とも連携しながら計画的に体験活動を行うことができ、子どもたちの成長につながる有意義な学びとなった。	A

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
学力向上 ・授業改善への取組 ・小中一貫教育の推進 ・ESDの推進 ・多様な学び教育の推進 ・家庭学習の充実	①授業改善の推進 ②基礎・基本の定着及び「書く」「聞く・話す」力の向上 ③家庭学習習慣の確立 ・	①授業改善の推進については、「和歌山の授業づくり基礎基本3か条」の充実に努め、月1回のペースで校内研究授業及び研究協議を行い、新学習指導要領の完全実施に向けて研究を推進した。 ②の基礎・基本の定着については、小規模校の特性を活かし、授業ではどの子にも「わかる・できる」指導の工夫や補充学習の実施に取り組んだ。「書く」「聞く・話す」力の向上については、読書活動の推進及び言語活動の充実、授業における「考えを書いてまとめ、伝えあう言語活動」の取り組みを進めたが、児童アンケートでは十分な成果が見られていない。来年度も継続的かつ発展的な取組を行いたい。 ③本年度も家庭と連携しながら年間を通じて家庭学習の定着に取り組んだが、保護者アンケート、児童アンケートでは課題ありとの結果であった。 ※ESDの推進については、本年度より年間指導計画を作成し、環境学習や世界遺産の学習を地域や関係機関の方々と連携しながら、計画的に実施できた。	B
体力向上 ・「体力アッププラン」の活用 ・教科外活動における全校的な体力づくり	①体力アッププラン きのくにチャレンジランキング事業の活用 ②全校的な体力づくりの実施 ③健康づくりの推進	①体力テストの結果から児童体力の現状を正確に把握した上で、課題克服に向けて、「体力アッププラン」に基づいて、体育の授業等で計画的に取り組むことができた。しかし、きのくにチャレンジランキング事業は十分活用できていない。 ②年間を通して休み時間を活用し、縦割り遊び、マラソン、縄跳びなどを計画的に行った。特に、マラソン及び縄跳びについては、達成目標を設定して学校行事として目標達成に向けて子どもたちが意欲的に取り組めた。 ③学校医、保健所等関係機関とも連携し子どもたちの健康づくりのために、児童への指導だけでなく、保護者への連絡・周知を行うことができた。	B

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
地域とともにある学校づくり ・ 共育コミュニティづくり ・ 地域、保護者との連携	①地域・保護者との連携 ②共育コミュニティづくりの取組への参加 ③防災教育の推進	①・月一回発行の「学校便り（校報こいの）」や学校のホームページ等で普段の学校生活の様子や学校行事での子どもたちの様子をこまめに紹介するなど情報提供に努めた結果、保護者アンケートでも評価していただいた。また、学校行事、PTA行事、「三世代交流会」などを通じて、地域、保護者の方々との交流を深めることができ、「地域とともにある学校づくり」が前進した。 ・ 学校運営協議会の取組が、具体的な取組として一歩前進した。今後も地域人材、外部人材の活用により子ども達に体験的な深い学びをさせたい。 ②共育コミュニティづくりとして、「ふれあいルーム」「サマーチャレンジ」「学習支援教室」「陶芸教室」など子ども達の居場所づくりを計画的に行えたが、「土曜講座」の参加者の減少により中学校区内の小学生の交流に課題が出てきた。 ③学校運営協議会で熟議された「防災・安全」の取組として「子どもと学ぶ防災学習会」を実施することができ、地域と連携した防災教育の第一歩を踏み出すことができた。 ・ 年3回の避難訓練、児童引き取り訓練など、計画的に実施でき、子ども達、職員の危機管理意識の高揚につながった。	B

4 保護者アンケート集計結果との比較から見てきた成果や課題

保護者アンケートでは、21項目中15項目において（そう思う）と（ほぼそう思う）の肯定的な回答の割合が90%を超えている。本校の教育目標「知・徳・体の調和のとれた子どもを育成する。」に係る項目は、項目2「こころ優しく思いやりのある子に育っていますか。」、項目3「『いつも元気でたくましい子』に育ってきていますか。」、項目4「『のびのび表現し進んで学ぶ子』に育ってきていますか。」だが、「徳」に係る項目2、「体」に係る項目3についてはいずれも肯定的な回答の割合が95%を超えています。しかし、「知」に係る3つの項目については90%を切っている。来年度から新学習指導要領完全実施となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、授業改善を進め研究と取組を進める必要がある。また、「学校便りや学級通信など、学校からのお便りの内容は適切ですか。」、「学校便りなどで教育活動がよくわかるようになっていきますか。」については（そう思う）と（ほぼそう思う）が100%だった。

本年度の学校経営方針として家庭、地域の安定した教育力を学校教育に生かし、「地域とともにある学校づくり」を目指し学校教育の取組を進めてきたが、その様子を学級だより、学校だより、ホームページ等で情報発信に努めてきた点が評価されと考えられる。

本校の課題の一つである子ども達の登下校時における安全確保についての項目10「子どもの登下校の安全は守られていますか。」では、「あまり思わない」「思わない」の割合が昨年に比べて15ポイント高くなっている。3月の恋野橋開通後は、交通量がさらに増加することが予想され、青少年セ

ンター、警察等の関係機関とも緊密に連携し、保護者、地域の皆様にもご協力いただきながら児童の登下校時の安全確保に努める必要がある。

家庭学習習慣の確立に係る項目 18 「子どもは、家での学習習慣が身についていますか。」の項目については、昨年度の課題でもあり、本年度は学力向上に向けての重点課題に位置づけ家庭とも連携して家庭学習習慣の確立に取り組んできたが、保護者アンケート、児童アンケートの両方で「課題あり」との結果となった。本年度の取組の適切さを学校でも検証し、引き続き家庭にもご協力いただきながら粘り強く取り組みたい。

5 今年度の取組の成果と課題・改善方策

☆成果

- ・コミュニティ・スクールの実現に向けて学校運営協議会の取組として、野菜ボランティアによる学校支援の取組が定着し、さらに本年度は、地域と連携した防災学習を実施することができた。
- ・学校ホームページ、学校便り、学級便りにより子ども達の様子、学校の様子についてきめ細かく情報提供してきたことで学校教育への理解が深まり、肯定的な評価をしていただいた。
- ・「地域とともにある学校」をめざし保護者や地域との連携を大切にした学校運営について、保護者アンケートでも評価をいただくことができた。
- ・学級集団づくり、縦割り活動の取組による仲間づくりの充実に取り組んできた成果として、学校が子ども達にとって楽しい学びの場であり、豊かな心の育成につながってきている。
- ・隅田中学校区の共育コミュニティの活動に子ども達、職員が積極的に参加することで中学校区内における職員間、児童・生徒間の連携が図られた。

★課題・改善方策等

- ・学力向上については、基礎・基本の定着とともに「書く」「聞く・話す」の活動を取り入れた指導を通じて成果も見られたが、来年度から新学習指導要領が完全実施となることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて自分の考えをまとめ、伝えあう言語活動の充実に引き続き取り組む必要がある。
- ・家庭学習習慣の確立に向けて年間を通して家庭と連携して取り組んだが、課題が見られた。来年度は子ども達の家庭生活のあり方を含めて本年度の指導内容を見直し、引き続き取組を継続する必要がある。